

令和元年度卒業生 キャリア支援にかかわる調査

1. はじめに卒業生自身のことをお尋ねします。

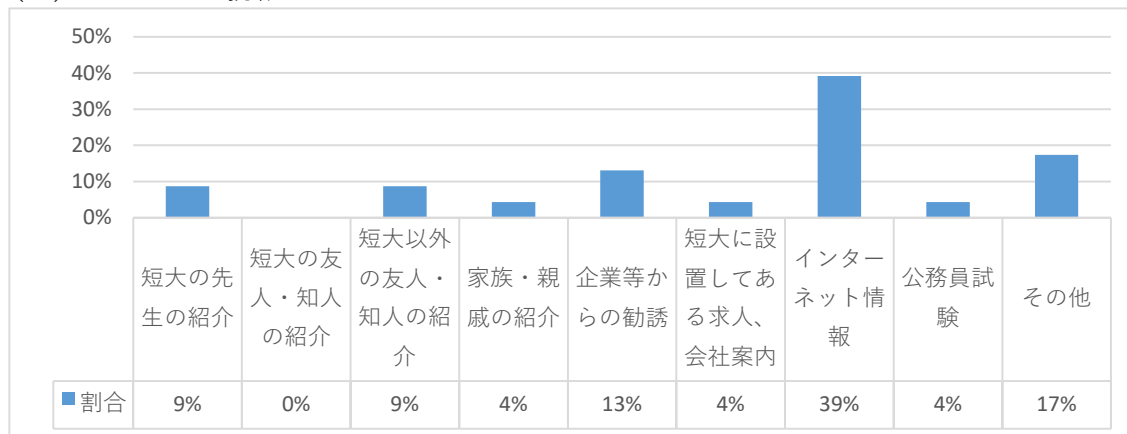
(ア) 卒業年度 令和2年3月卒業

(イ) 所属学科コース

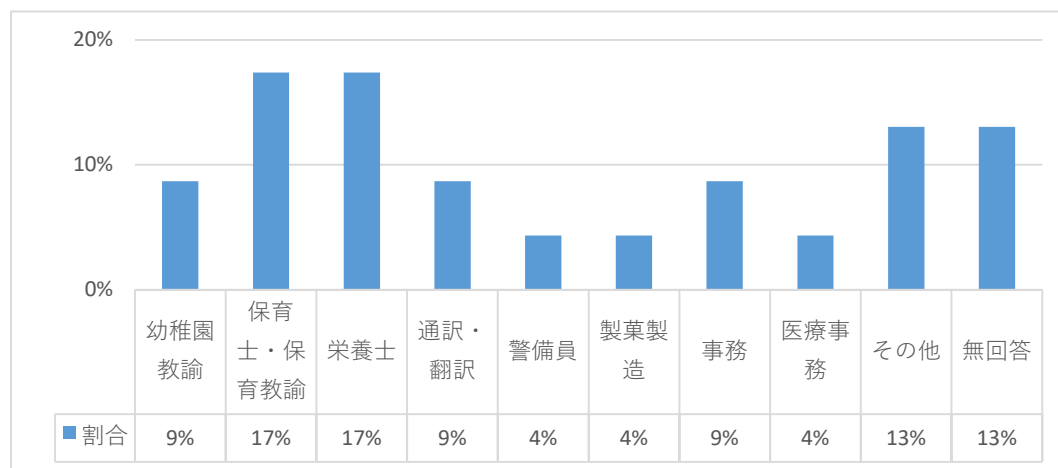
学科・コース	人数	割合
幼児教育学科	6	26%
介護福祉コース	0	0%
スイーツ・カフェコース	2	9%
食物栄養コース	5	22%
国際観光ビジネスコース	2	9%
無回答	8	35%
計	23	100%

2. 卒業時の就職先についてお尋ねします。

(ア) どのように就職しましたか

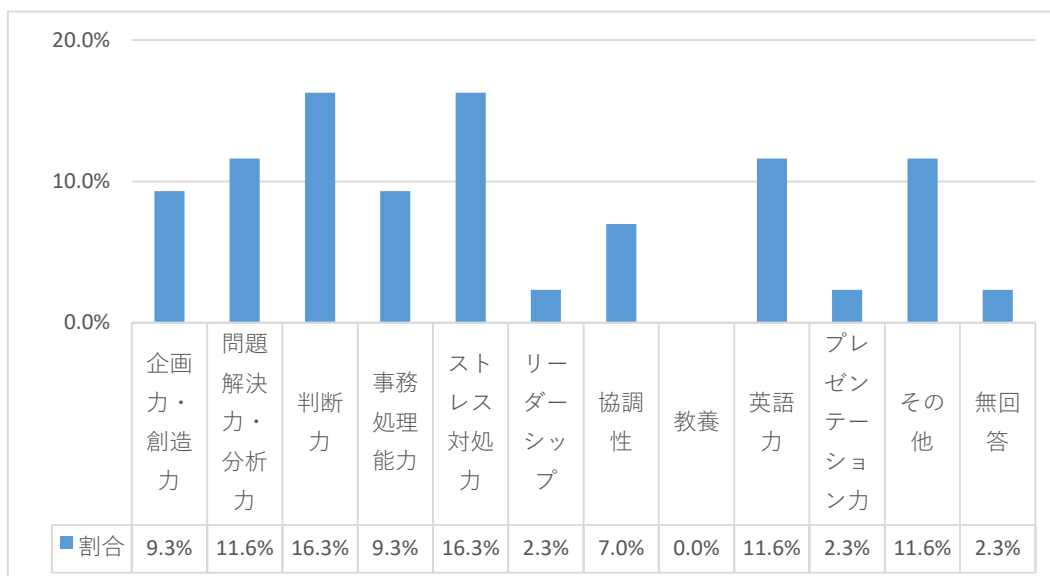


(イ) 職種は何ですか



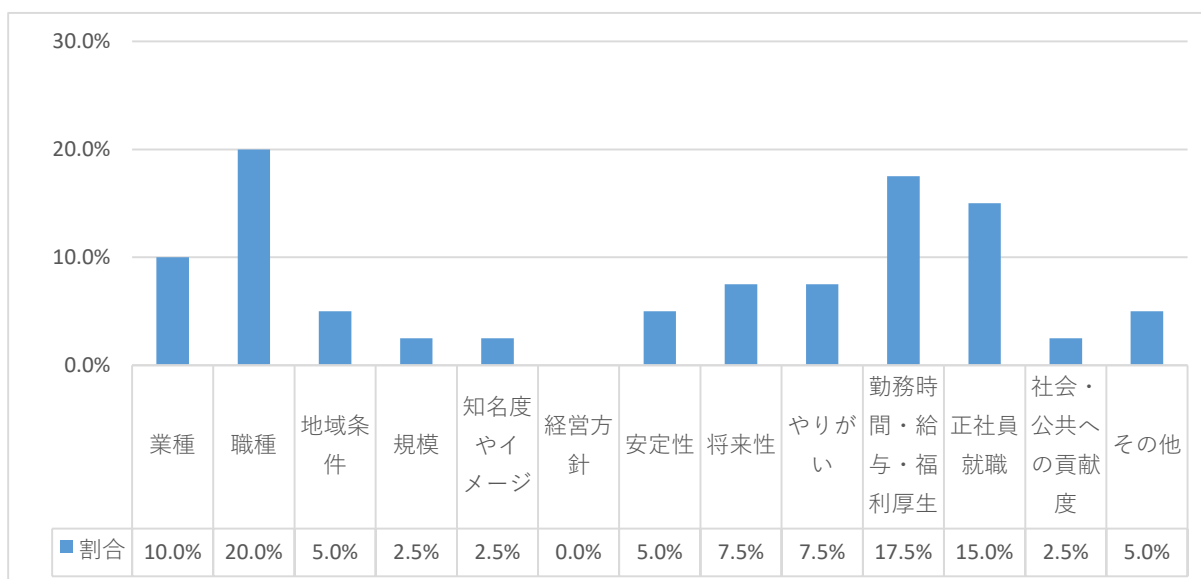
その他：飲食業、ホテル業、作業所

(ウ) 自分に不足していたと感じた能力はありますか (複数回答あり)

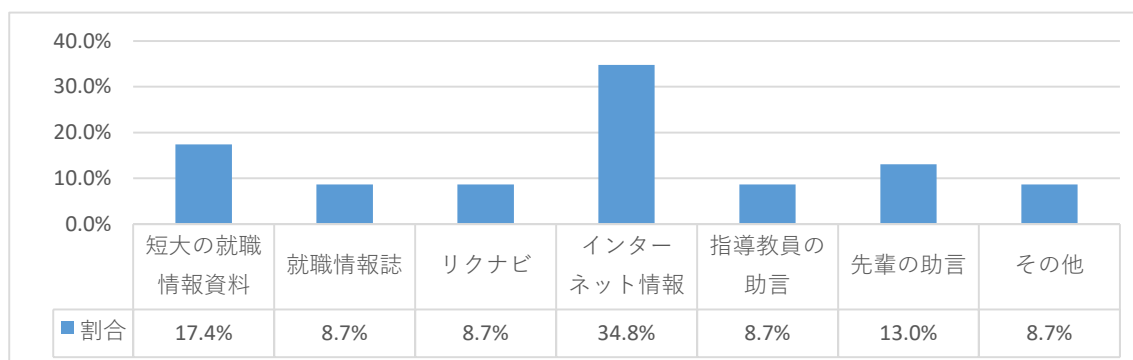


3.在学時の就職活動についてお尋ねします。

(ア) 志望就職先を決定する際に最も重視したことは何ですか

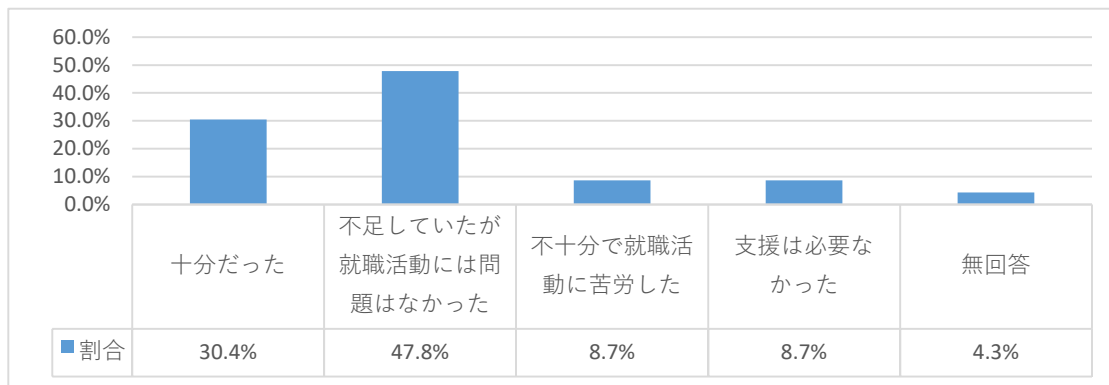


(イ) 就職時に参考にした情報源は何ですか (複数回答あり)

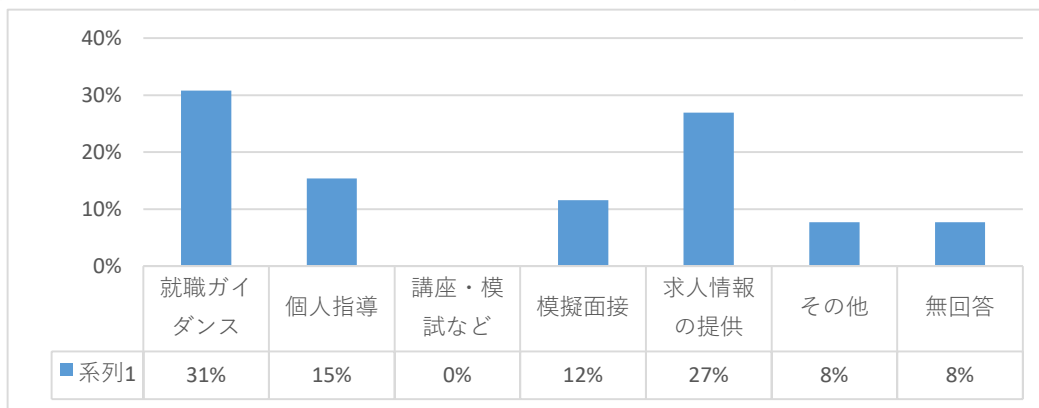


その他：ハローワーク

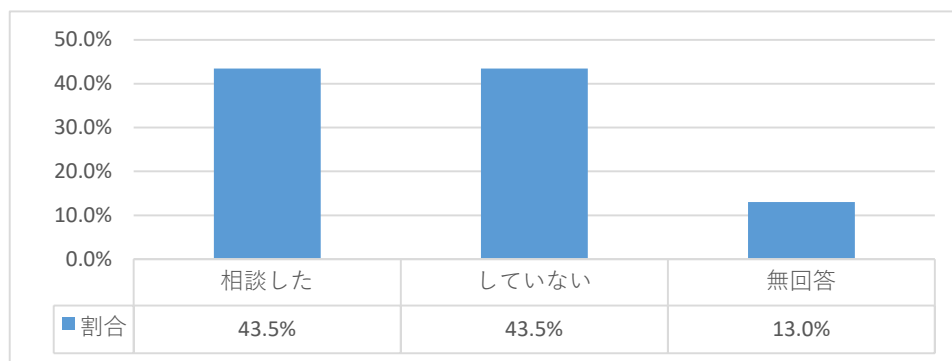
(ウ) 短大の就職活動の支援は十分でしたか



(エ) 短大で行った就職支援の中で重要と感じたものは何ですか（複数回答あり）

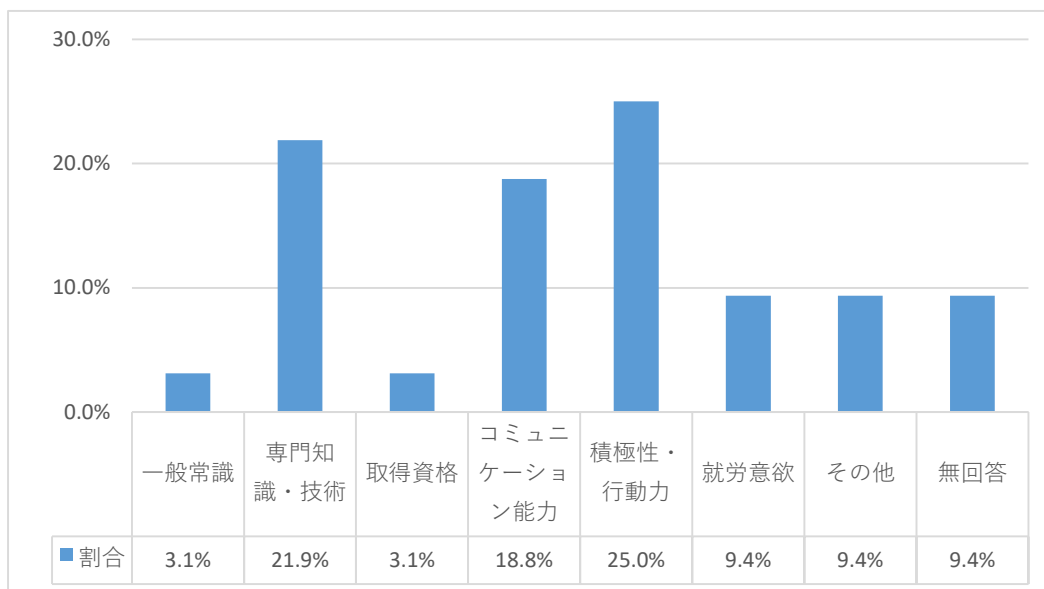


(オ) 就職活動の悩みなどを友達、担任、キャリア支援課に相談しましたか



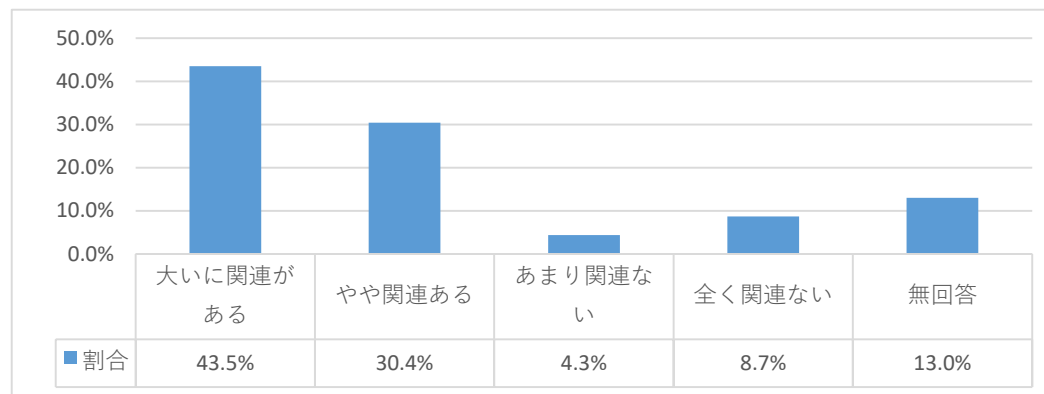
相談した相手：友達5人・親戚1人、担任3人、ハローワーク1人

(カ) 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものは何ですか(複数回答あり)

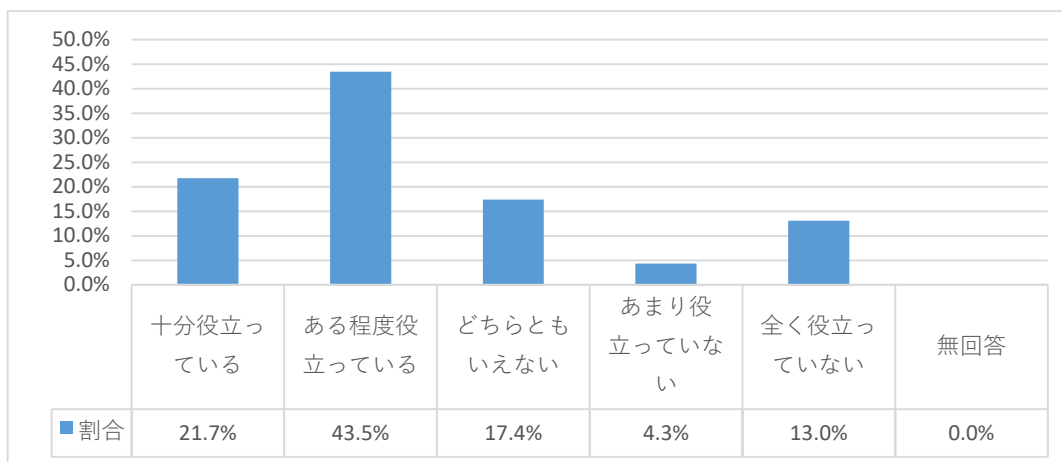


4. 短大の教育についてお尋ねします。

(ア) 短大時代に学んだ専門分野は就職先の仕事とどの程度関連していますか



(イ) 仕事や日常生活の中で短大での学びや経験が役に立っていると感じることはありますか



5. 学生時代にやっておけばよかったと思うこと、卒業後社会に出てから必要を感じて勉強しておけばよかったと思うこと

- ・ コミュニケーション能力は私にとって仕事のことに役立ちことができました
- ・ 献立作成の練習、野菜などの重さを知っておくこと。市場の価格をよく知っておくこと
- ・ 語学能力・調理技術・人間関係、社会人礼儀、パソコン技能
- ・ 学生時代に就職活動をしていたらよかったなと思いました
- ・ 専門的な知識の習得
- ・ コミュニケーション能力、社会性について
- ・ 栄養士界限での常識をもっと身につけておけばよかった
- ・ 観光の知識を勉強した
- ・ 十分たくさん経験できました
- ・ 書類の書き方の勉強（特に未満児の日々の連絡ノート）

6. 自由記述欄 学生時代の自分への思いや後輩へのメッセージ、今後の自分のキャリア形成などについて、ご意見や感想など自由に記述してください。

今治では、本当に静かな町ですが、私にとってみんなの地元は優しい人多いし、たくさん経験ができました。仕事も人間関係もよかったです。

- ・ 学生時代に宿題以外にもっと献立作成の練習をしておくこと（後輩へ）
- ・ PC室以外にも求人情報をおいてほしい（県内県外に分けて）
- ・ 教室にも少しあるが少ない。クラスのほとんどがネットで探している人が多かった。
- ・ 国家試験対策が不十分だと思う。学校で模擬テストを何度もしてほしい。時間配分ができず、問題にも触れる機会が少ない。（介護福祉コースみたいに1日1問等も）
- ・ 栄養コースが考えた献立を調理科とコラボしたり、食堂で出したり実習したりしないのか。せっかく栄養と調理科があるのにもったいない気がする。
- ・ 早めに就職先を決め、その職に役立つことを勉強しておいたほうがいいと思います。
- ・ 現在、就労移行支援を受けています。作業所や就職に向けて取り組んで行きたいです。製菓衛生士の国家試験を年明けには受験する予定です。
- ・ 将来に役立つように、2年間頑張ってください
- ・ 技術力（調理）
- ・ 就職活動に早くから行動しておかないといけないと思った
- ・ 自身のコミュニケーション能力は大切である
- ・ 短大生活とても楽しかったです。ありがとうございました

毎日、朝から夜まで働き、正直とても大変です。サービス残業ばかりです。保育士の資格を持っていても、保育士として働かないという理由がよくわかりました。子どもたちの育ちに携わっているという責任があるので、まずは1年間頑張ります。

◆ 2019年度 卒業生に関する教育活動の改善に向けたアンケートの集計結果から

調査対象事業所件数 64 件のうち、37 件（57.8%）の事業所から回答を得た。事業所規模は、50 名未満が 40.5%であり、事業所の業種が、教育・学習支援業、医療・福祉を合わせて 70%超であること、採用職種が保育士、幼稚園教諭、栄養士、介護福祉士、調理師で 73%であることなどから、本学で取得した資格をもとに介護施設や乳幼児教育保育施設、レストラン等飲食業等関連施設に入職していることがわかる。

また、卒業生の在籍数についてはこれまでに複数採用実績のある事業所が 63%で、本学卒業生を採用した理由として「教員の紹介」「専門知識・技能」のほかに「人柄」を挙げてくださいていることから、地元の事業所であることや資格取得にかかる教育機関である本学の歴史等をベースに、卒業生に対して期待をかけてくださっている様子が伝わってくる。

一方で採用いただいた卒業生に対しての評価として、「社会人基礎力」、「協調性」、「課題発見・課題解決力」「リーダーシップ」において、社会人として必要であり身につけるべきである、あるいは、不足しているとの評価をいただいております、これらのことから、基礎学力及び専門知識・技能と社会人基礎力にあたる倫理観等の育成養成がさらに求められていると考えられる。自由記述の内容にも、専門知識や技能の充実はもとより、一般教養や他者との共同に向かう資質の向上、防災士等の関連資格の取得などについての評価と期待が述べられている。現在の就労現場は異業種連携や協働が当然求められる社会情勢の中にあり、本学卒業生には自らの意見やアイデアを他者にわかりやすく説明できるプレゼン力や、協力し合って成し遂げるための協調性などを身につけさせるべく、教育に取り入れる必要があると考えられる。

各コースにおける教育及び支援においては、毎日の学内での学習に参加し、生活リズムを保ち、自分自身が社会貢献する力を身につけようとする意志を持つことなどを基礎に、社会人基礎力の向上として下記の内容を視野に入れた実践を行っていくこととする。この場合、前期、後期それぞれの中でショートゴールを細かく設定し、軌道修正をしつつロングゴールを目指すことができるようなモニタリングも取り入れるようお願いしたい。

- 日々の学習に主体的に取り組み、チームでの実践をより良いものにするためにメンバーに働きかけ、まとめていく力を育てる。
- 実践のゴールを設定し、ゴールに向けてアイデアを出し合い創造的に進めていく力を育てる。この場合には、実践への道筋で生じた課題や困難などを乗り越えるための分析力等も含まれる。
- 自分の意見を他者にわかりやすく伝え、他者の意見も理解しながら協力し合い連携する力を育てる。

◆ 2019年度卒業生 キャリア支援にかかわる調査結果から

卒業生に対して行ったキャリア支援にかかわる調査結果としてまず介護福祉コースを除くすべての学科・コースから回答を得た。卒業時の就職先選択に関して、「インターネット情報」39%、「企業からの勧誘」13%、「短大教員の紹介」「短大以外の友人・知人の紹介」が共に9%でインターネット情報を主たる情報源としていたことがわかった。就職活動時に重視したことの「業種」10%、「職種」20%、「勤務時間・給与・福利厚生」17.5%、「正規採用」15%などと、就職活動時に参考にした情報源の「インターネット情報」34.8%、「先輩の助言」13%とあわせて、就職ガイダンスや教員等による指導などと、身近な友人や家族、先輩の意見を得たうえで、事業所の規模や雰囲気、給与・福利等を就職先決定の際の条件とし、それを確認するためにインターネット情報を有効な情報源としていることが示された。

就職活動にかかる支援については、「就職ガイダンス」31%、「求人情報の提供」27%を重要とし、短大の就職活動支援について「十分だった」「不足しているものの問題なし」を合わせると約80%が肯定している。就職活動の悩みについて相談する、しないが同率であり過去の傾向としての家族や友人、担任、キャリア支援課の意見をもとに就職先を検討する学生の割合が減少傾向にあることもうかがえる。

就職後を展望した質問では、就職先の仕事に短大で学んだ内容が「大いに関連がある」「やや関連がある」を合わせて73%、仕事や日常生活の中で短大での学びや経験が役に立っているかの問いには「十分役立っている」「ある程度役立っている」を合わせて65%であることから、資格取得を基礎に自己形成を支える短期大学としての役割はある程度果たされているという見方ができると考えられる。

就職活動を終えて自分に不足していたものは「専門知識・技術」21.9%、「積極性・行動力」25%、「コミュニケーション能力」18.8%であり、卒業後社会に出てから必要と感じたスキル等に関して「専門的知識」や「社会性」などが挙げられたことから、短大側が提供する理論学習等が将来現場で社会貢献する自身に必要なものとして認識されにくく、短大での授業等学習に積極的に取り組むことが困難であるという状況も想定して、実践の場を想定できるような実践参加型の授業形態を試行し、より現場で自らが活躍するイメージを描くことができる支援を行う必要があると考える。このことは、自由記述の「宿題以外にも献立作成練習をしておけばよかった」「食堂で栄養コースと調理師専修科が合同で行う実習もしてほしい」「学校で模擬テストをしてほしい」などとも関連するものである。

これらのことを踏まえて、本学のような小規模短大においては、教員が学生に対して細やかなかわりができる長所はこれまでと変わらず継続しつつ、大規模校と同様にインターネット情報をはじめとする最新機器を活用した情報収集を可能にし、各コースが現場での就労をイメージできるような参加型実践授業等の試行を行うなどすることで、職場とのマッチングを向上させ、職場定着を確かなものにする取り組みを今後の課題としたい。